

メキシコの寒さを少しずつ感じている間に、日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画の派遣生としてメキシコに滞在する私に残された時間もあと半年となってしまいました。

三宅 優美

今日は、メキシコの富士山とも呼ばれている **Popocatepétl (ポポカテペトル山)** とその神話上の恋人 **Ixtaccihuatl (イツタシワトゥル山)** が雪を纏い、家の屋上から輝いて見えます。前日にたくさんの雨が降ったことで空気がきれいになり、今年初めてこの二つの山を見ることが出来ました。朝焼けの中に輝く姿は格別です。山の名前は、両方とも、メキシコの先住民 **Nahuatl (ナワトツル)** 族の **Nahuatl (ナワトツル)** 語をそのまま使っているのだそうです。実は、メキシコの地名の多くにこの言葉が使われています。

大家さんの話によると、昔は、この2つの山は一年中雪をかぶっていることが普通だったそうです。大気汚染や温暖化による地球環境の変化を強く感じました。

現在は火山活動が活発で入山規制がかかっていますが、メキシコの富士山のそばまでいつか行ってみたいと思います。

☆Popocatepétl (ポポカテペトル) ☆

と ☆Ixtaccihuatl (イツタシワトゥル) ☆



JARDÍN BOTÁNICO～植物園～

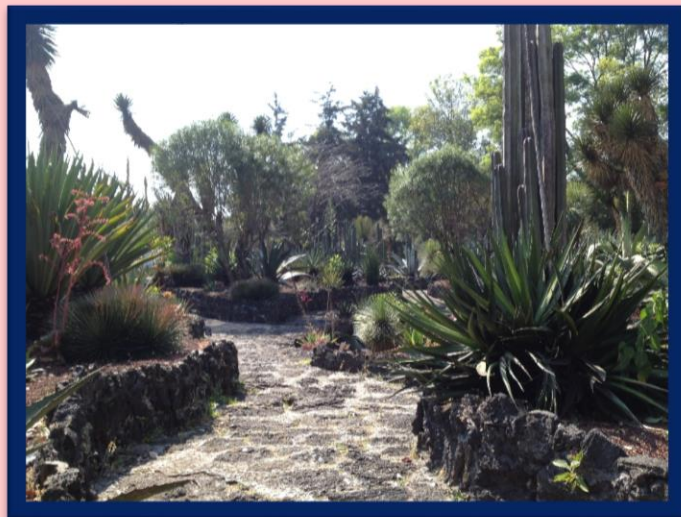
私が現在通っているCEPE（外国人のためのスペイン語教育学校）の所属するUNAM（メキシコ国立自治大学）には大きな植物園があります。植物園は、スペイン語で **JARDÍN BOTÁNICO (ハルディン・ボタニコ)** といいます。さすがはラテンアメリカ一番の大学と言われるだけあって、その敷地内にあるこの植物園は広大で、すべてを見て回るのに二時間かかってしまいました。

メインの植物の多くは、おそらく日本の皆さんが「メキシコと言えば？」という質問によって連想するであろうサボテンです。一言でサボテンといっても、テキーラやメスクラとい

うお酒を製造するために使われるMaguey (マゲイ)と呼ばれるものから、タコスの具として挟むなど食用として使われるNopal (ノパル)といったものまでさまざまな種類があります。

見られたのは植物だけではありません。空中でホバリングしながら木々の花の蜜を吸うColibri (コリブリ。「ハチドリ」のこと)を近くで見ることができました。また、食事中的リスにも遭遇し、自然の豊かさを感じました。

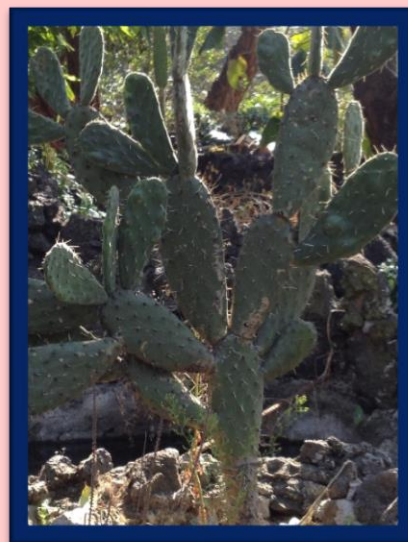
☆JARDÍN BOTÁNICO (ハルディン・ボタニコ)のサボテンエリア☆



☆Maguey (マゲイ) ☆



☆Nopal (ノパル) ☆





☆薬草エリアの花・Colibrí(コリブリー)・リス(食事中)☆

メキシコで数年前に公開され、日本では去年5月ごろにスペイン語圏映画祭（「ラテン・ラテン・ラテン」）で上映された“Las Buenas Hiervas”（グッド・ハーブ。「薬草」のこと）という映画のロケ地の一つになったのが、ここ、JARDÍN BOTÁNICO（ハルディン・ボタニコ）です。この映画のヒロインのお母さんが大学の研究者で、この植物園はそんな彼女の庭として使われています。暖かくて切ないヒューマンストーリーです。興味のある方はぜひ見てみてください。

☆Las Buenas Hiervas☆ ☆紅葉した松の木☆



この植物園には、メキシコ古来の薬草も植えられていて、上記のハチドリの写真のように、その一つ一つに、丁寧に、説明のプレートがつけられています。

植物園の外にも、プレートのつけられた木々を数多く目にしました。大学の敷地そのものが植物園といえるのかもしれませんが。そう思うほどに、私が普段通っているUNAMは植物に満ちていて、常に青々としています。構内では、あちらこちらで大学生が日向ぼっこしたり、サッカーやバスケットボール、ヨガなどをしたりしています。ちょっとしたピクニック

スポットともいえるかもしれません。私の知る日本の大学とは全く違う光景です。

植物園は、季節柄、青々としていたのはサボテンと常緑樹で、草花はまばらになっていました。しかし、メキシコで紅葉を見ることが出来たのでラッキーだったかもしれません。もう少し暖かい季節になってからまた訪ねてみたいと思います。